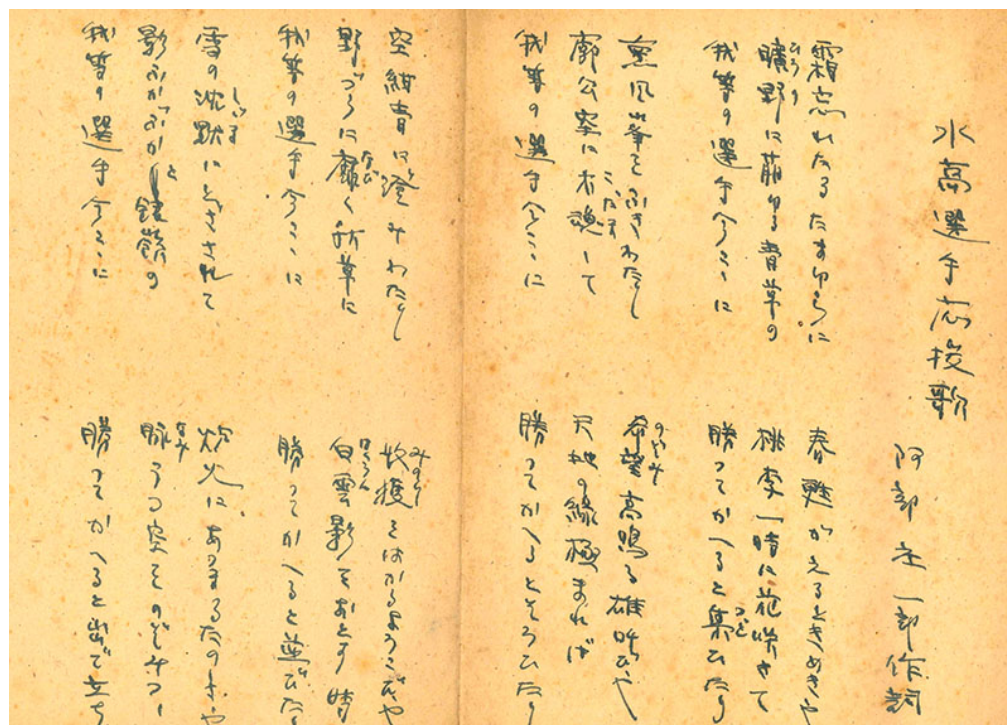


作詞者の直筆歌詞発見 創立110周年の節目に 水沢高第一応援歌

奥州・金ケ崎 2020年5月10日付



発見された水沢高第一応援歌の直筆歌詞。「水高選手応援歌」と題されている

県立水沢高校（奥州市水沢字龍ケ馬場）の第一応援歌の作詞者阿部庄一郎さん（1906～59年）による直筆の歌詞が見つかった。阿部さんは当時の教諭で、家族が保管していた。地域の歴史を掘り下げる本がきっかけで、創立110周年の節目を迎える同校にとって貴重な発見となった。

歌詞を保管していたのは、阿部さんの次男研也さん（76）＝埼玉県狭山市＝。自費出版シリーズ「奥州・仙台の謎解き」を発行している奥州市水沢出身の佐々木伸さん（65）＝仙台市＝から取材を受け、第1弾「逍遙歌 奥州と信州の知られざる絆」の刊行・改定に協力した。研也さんは今春に出来たこの改定版を読み、母から預かった阿部さんの遺品のことを思い出したという。

歌詞はわら半紙に万年筆の青いインクで4番まで書かれている。題は「水高選手応援歌」とあるが、内容は現在の第一応援歌とほぼ同じ。「廣野に萌ゆる」「我等の選手」など、細部の表記は違う。阿部さんの同校教諭時代の書類をまとめた箱の中に入っていた。

同校は11（明治44）年に胆沢郡立美科高等女学校として創立。学制改革で県立水沢中学校、水沢商業学校と統合し、48年に県立水沢高校となった。佐々木さんによると、阿部さんの正式な赴任は同校創立と同時にとの記録が残り、同年に入学した生徒が応援歌の作詞を依頼したという証言

もあることから、49年に作詞されたとみられる。発見された歌詞は阿部さん自身の控えとみられ、原本とみなせるほど初期の物という。

阿部さんは東京生まれ。旧制一高（現東京大）で学び、一時は文学も志した。太平洋戦争中に疎開し水沢へ転居。水沢中時代に既に英語教諭として招かれていたという情報もあり、草創期の同校の学力を高めることに尽力したという。同校に伝わる歌のうち「逍遙歌」「水高賛歌」も作詞している。

自らも同校に在籍した研也さんは「変更された（現在の）歌詞と原詞それぞれに良い部分がある。父が変更した部分もあるかもしれない」と語り、「水高を離れて61年たつが、原点でもある水沢に郷愁を覚え、今でも口ずさむ応援歌が好きだ」と懐かしむ。

佐々木さんは「全国高校総合体育大会などが中止となる中、応援歌の発見は高校生への応援のメッセージなのかとも思う。110周年の節目に、母校にも報告したい」としている。

シェア [Tweet](#) [LINEで送る](#)

雛形あきこ(42)「10年分の毛穴の角栓がゴッソリ!?」洗顔前の習慣が大炎上
PR([ozio on キレイ肌.com](#))

研究成果 今後の糧に 水沢高SSH課題発表会 コンニャクで耐震調査【奥州】

留学経験自分の力に 水沢高でSSH英語講演会【奥州】

51歳で英語ペラペラ、元大統領通訳が教える裏ワザで英会話教室がピンチに
PR([LS Creation](#))

笑顔咲く春 県立高合格発表【奥州】

研究成果 英語で 水沢高SSH課題発表会 物理、文学多彩に【奥州】

国生さゆり(53)「ほうれい線は市販品で消えるよ？」朝1つの習慣が簡単すぎる
PR([ヴィワンアークス](#))

実はシミは市販品で消えると判明？医師の妻(45)が大暴露
PR([vihaxia](#))

Recommended by

(c)岩手日日新聞社 無断複製、転載を禁じます。